

評価計画作成資料（案） 2 年

単元名		配当時間	学習目標【学習指導要領の指導事項】・教材名	
一 さあ始めよう		1	・これまでに学習した書写技能を確かめる。 【書イ 目的や必要に応じて、楷書又は行書を選んで書くこと。】 ○楷書・漢字と仮名・行書	
時	観 点 評 価 の	学習活動における具体的評価規準 (B「おおむね満足できると判断される」状況)	評価方法	☆ Bを実現していない学習者への手だて の例
1	関心・意欲・態度	○これまでに学習してきた書写の知識と技能を確かめようとしている。	行動の観察	☆○これまでに学習した「楷書の整え方」「漢字と仮名の交え方」「行書の基礎的な特徴」(p.2～3)が、生活のさまざまな場面に応じて必要になることを、「はがき」(p.2)や「社会科の授業のノート」(p.3)の例によって確かめさせる。
	能 言語についての技	○これまでに学習してきた知識と技能がどのように生かされているか、「はがき」や「ノート」の例示から見つけだしている。	行動の観察	☆○これまでに学習した「楷書の整え方」「漢字と仮名の交え方」「行書の基礎的な特徴」(p.2～3)について、例示されている文字のどの部分がどのようになっているか具体的に指摘させる。

単元名		配当時間	学習目標 【学習指導要領の指導事項】・教材名	
二 行書への理解を深めよう		7 ① 6 ② 1	・行書の特徴への理解を深めて書く。 【書ア 漢字の行書とそれに調和した仮名の書き方を理解して、読みやすく速く書くこと。】 ① 行書の書き方を確かめよう ② 学習を生かそう	
時	観点 評価 の	学習活動における具体的評価規準 (B「おおむね満足できると判断される」状況)	評価方法	☆ Bを実現していない学習者への手だて の例
1 2 3 4 5 6	関心・意欲・態度	①行書の基礎的な特徴（p.4㉔㉕㉖）について確かめようとしている。 ①行書の2つの特徴（点画の省略・筆順の変化）について、文字例を参考にしながら書いて、確かめようとしている。	書字活動の点検	☆①行書の基礎的な特徴が、文字のどの部分で用いられるかを確かめさせる。 ☆①行書の2つの特徴が、文字のどの部分で用いられるかを確かめさせる。
	言語についての技能	①行書の基礎的な特徴（曲線化、筆脈の連続・直接連続、形の変化・方向の変化）について確かめながら書いている。 ①行書の2つの特徴について、それぞれが用いられる部分を確認して、その特徴を生かして書いている。 ㉔ 点画の省略 ㉕ 筆順の変化	書字活動の点検 制作物の確認	☆①行書の基礎的な特徴について、拡大された形（p.4 上段）を指でたどらせる（指書きさせる）ことによって確かめさせる。 ☆①行書の2つの特徴のそれぞれについて、拡大された形（p.5,6 上段）を指でたどらせる（指書きさせる）ことによって確かめさせる。
7	欲・態度 関心・意	②行書の書き方のあらましについての理解を生かそうとしている。	書字活動の点検	☆②行書の5つの特徴が、文字を速く読みやすく書くうえで必要であることを確かめさせる。
	技能 言語についての	②行書の特徴（p.7㉔～㉕）を確認して、その方法を生かして書いている。	制作物の分析	☆②文字を速く読みやすく書くために行書が効果的であることを、学習を振り返って、具体例をもとに確かめさせる。

単元名		配当時間	学習目標【学習指導要領の指導事項】・教材名	
三 行書と仮名を交えて書こう		6 ① 2 ② 2 ③ 2	・仮名の交え方を理解して書く。 【書ア 漢字の行書とそれに調和した仮名の書き方を理解して、読みやすく速く書くこと。】 ① 行書に調和する仮名の書き方 ② 行書と仮名を調和させて書こう ＊文字を速く書くために一文字から文字へのつながりを大切にしようー ③ 学習を生かそう	
時	観点 評価の	学習活動における具体的評価規準 (B「おおむね満足できると判断される」状況)	評価方法	☆ Bを実現していない学習者への手だて の例
1 2	度 関心・意欲・態	①行書に調和する仮名の書き方があることを理解しようとしている。	行動の 観察	☆①「考えよう・話し合おう」の活動で先に答えを示し、行書に調和する仮名のどの部分に行書の特徴が表れているか、具体的に指摘させる。
	技能 言語についての	①行書の特徴とそれに調和する仮名の特徴との共通性を理解し、それを生かして書いている。	書字活動 の点検	☆①平仮名五十音 (p.34-35) や「硬筆字形例」(p.38)を示し、行書に調和する仮名のどの部分に行書の特徴が表れているか、具体的に指摘させる。
3 4	関心・意欲・態度	②行書と仮名を交えて書く方法を理解しようとしている。 ＊文字を速く書くためには、文字から文字へのつながりが大切であることを理解しようとしている。	書字活動 の点検 行動の 観察	☆②行書と仮名の交え方が不適切な例 A と適切な例Bとを、「行書の特徴」(p.10 中段)を観点として比較させ、その違いを確かめさせる。 ☆＊文字から文字へのつながりを大切にしたい形 (p.11 上段)を指でたどらせる (指書きさせる) ことによって確かめさせる。
	言語についての技能	②行書と、行書に調和する仮名を交えて書いている。 ＊文字から文字へのつながりを大切にして速く書いている。	書字活動 の点検 制作物の 確認	☆②「硬筆字形例」(p.38)を示し、二つの字形例の形の違いを具体的に指摘させる。 ☆＊文字から文字へのつながりを大切にしたい形 (p.11 下段)を指でたどらせる (指書きさせる) ことによって確かめさせる。
5 6	関心・意欲・態度	③行書と仮名の交え方のあらましについての理解を生かそうとしている。 ③便せんや封筒の書き方を理解しようとしている。	書字活動 の点検	☆③行書と仮名の交え方のあらましが、行書と仮名を交えて書くうえで必要であることを確かめさせる。
	能 言語についての技	③漢字と仮名の交え方のあらまし (①②)を確かめて、その方法を生かして書いている。 ③便せんや封筒の書き方を理解して書いている。	制作物の 分析	☆③行書に調和する仮名の書き方、行書と仮名を交えて書くときの方法について、これまでの学習を振り返って、具体例をもとに確かめさせる。

単元名		配当時間	学習目標【学習指導要領の指導事項】・教材名		
四 生活の中で書体を使い分けよう		4 ① 2 ② 2	・書く場面に応じて楷書と行書を使い分ける。 【書イ 目的や必要に応じて、楷書又は行書を選んで書くこと。】 ① 場面や目的にふさわしい書体で書こう ② 学習を生かそう		
時	観点 評価の	学習活動における具体的評価規準 (B「おおむね満足できると判断される」状況)		評価方法	☆ Bを実現していない学習者への手だての例
1 2	度 関 心・意 欲・態	①生活の中には、楷書で書くのがふさわしい場面、行書で書くのがふさわしい場面がそれぞれあることを理解しようとしている。		行動の 観察	☆①楷書で書かれたはがきと行書で書かれたはがき (p.15) について、それぞれどのような場面で書かれたか想像させる。
	言語に 関する 技能	①楷書で書くのがふさわしい場面、 行書で書くのがふさわしい場面を 具体的に挙げている。 ①場面に合わせて書体を選択して書 いている。		書字活動 の点検 制作物の 確認	☆①はがきや願書の例 (p.15) が p.14 の どの欄にあてはまるか、具体的な理由 とともに考えさせる。 ☆①学習を振り返って (p.14), 場面と書体 の関係を確かめさせる。
3 4	度 関 心・意 欲・態	②書体の使い分け方のあらましについての理解を生かそうとしている。		行動の 観察	☆②場面や目的に合わせて書体を使い分けることが、生活の中で文字を書くうえで必要であることを確かめさせる。
	言語に 関する 技能	②書体の使い分け方のあらましを確かめて、その方法を生かして書いている。		制作物の 確認	☆②場面や目的について、具体例をもとに確かめさせる。

単元名		配当時間	学習目標【学習指導要領の指導事項】・教材名		
●書き初め		2	・「書き初め」という伝統的な活動について理解を深めるとともに、これまでに学習した知識・技能を生かして書く。 【書ア 漢字の行書とそれに調和した仮名の書き方を理解して、読みやすく速く書くこと。】 【書イ 目的や必要に応じて、楷書又は行書を選んで書くこと。】		
時	観点 評価の	学習活動における具体的評価規準 (B「おおむね満足できると判断される」状況)		評価方法	☆ Bを実現していない学習者への手だての例
1 2	度 関 心・意 欲・態	○「書き初め」を書く意義と、これまでに学習したことを生かして書く意義とを理解しようとしている。		行動の 観察	☆○「書き初め」を書く目的を確かめさせるとともに、書く目的に合った書き方を考えさせる。
	言語に 関する 技能	○これまでに学習した知識・技能を用いて、「書き初め」にふさわしい活用の仕方を意識して書いている。		制作物の 確認	☆○これまでに学習したことを確かめながら、自分の「書き初め」にふさわしい書き方で書かせる。

評価計画作成資料（案） 3 年

単元名		配当時間	学習目標【学習指導要領の指導事項】・教材名	
五 文字の使い方を工夫しよう (身のまわりの文字)		5 ① 2 ② 3	・身のまわりの文字の工夫やその効果について考え、文字を使い分ける。 【書ア 身の回りの多様な文字に関心をもち、効果的に文字を書くこと。】 ① 文字の使い方の工夫を見つけよう ② 本の帯をつくろう	
時	観 評 点 価 の	学習活動における具体の評価規準 (B「おおむね満足できると判断される」状況)	評価方法	☆ Bを実現していない学習者への手だて の例
1 2	度 関 心・意 欲・態	①身のまわりの文字に関心をもっている。	行動の 観察	☆①例示されているもの (p.18 下段) について、手書きか活字か、文字の種類や大きさはどうか、など具体的に指摘させる。
	の 言 語につ いて	①身のまわりの文字を見て、文字の種類・使い分け・工夫の効果・ねらいを見つけだしている。	行動の 観察	☆①ねらいがあつて文字を書く場合、文字の使い分けが必要であることを確かめさせる。
3 4 5	態度 関 心・意 欲・	②相手や目的に応じて文字を工夫して書くことに関心をもっている。	行動の 観察	☆②例示されているもの (p.21) について、どのような工夫があり、どのような効果が出ているか、具体的に指摘させる。
	の 言 語につ いて	②文字の種類・使い分け・工夫の効果・ねらいをはっきりさせて、書いている。	制作物の 確認	☆②下書きを友だちと見せ合い、ねらいが伝わっているか確認させる。

単元名		配当時間	学習目標【学習指導要領の指導事項】・教材名		
六 学習のまとめ		3	・これまでの学習を生かして書く。 【書ア 身の回りの多様な文字に関心をもち、効果的に文字を書くこと。】 ○感謝の気持ちを伝えよう		
時	観点 評価の	学習活動における具体的評価規準 (B「おおむね満足できると判断される」状況)	評価方法	☆ Bを実現していない学習者への手だての例	
1 2 3	態度 関心・意欲・	○これまでに学習した知識・技能を、場面に応じて適切に活用しようとしている。	行動の観察	☆○書写の知識と技能が、学校生活のさまざまな場面が必要であることを、具体的な例によって確かめさせる。	
	技能 言語についての	○楷書と行書の特徴とその使い分け、用紙・筆記用具、文字の大きさ、配置など、適切に判断して書いている。	制作物の確認	☆○行書の書き方や文字の大きさ・配列について、「学習したことを生かそう」(p.24～25 下段)をもとに、これまでの学習を振り返って確かめさせる。	

単元名		配当時間	学習目標【学習指導要領の指導事項】・教材名		
●書き初め		2	・「書き初め」という伝統的な活動について理解を深めるとともに、これまでに学習した知識・技能を生かして書く。 【書ア 身の回りの多様な文字に関心をもち、効果的に文字を書くこと。】		
時	観点 評価の	学習活動における具体的評価規準 (B「おおむね満足できると判断される」状況)	評価方法	☆ Bを実現していない学習者への手だての例	
1 2	態度 関心・意欲・態	○「書き初め」を書く意義と、これまでに学習したことを生かして書く意義とを理解しようとしている。	行動の観察	☆○「書き初め」を書く目的を確かめさせるとともに、書く目的に合った書き方を考えさせる。	
	技能 言語についての	○これまでに学習した知識・技能を用いて、「書き初め」にふさわしい活用の仕方を意識して書いている。	制作物の確認	☆○これまでに学習したことを確かめながら、自分の「書き初め」にふさわしい書き方で書かせる。	